



(参考仮訳)

プレスリリース No. 13/30  
即時解禁  
2013年1月30日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

### IMF 理事会、クォータ計算式の見直しに関する報告書を提出

国際通貨基金 (IMF) の理事会は本日、クォータ (出資割当額) 計算式の見直しの結果に関する報告書を、188 加盟国が構成する総務会に提出した。総務会は、2010 年のクォータ及びガバナンス改革のなかで、クォータ計算式の包括的見直しを 2013 年 1 月までに完了するよう要請していた。

総務会への報告書の中で理事会は「新たなクォータ計算式の最終合意の基盤を形作ると考えられる中核的要素の特定において、重要な前進を遂げてきた」と指摘するとともに「見直しの過程で理事会は協議を重ねて来たがこれは、世界経済における加盟国の相対的な地位をより適切に反映する新たなクォータ計算式合意への重要な礎となった。この度のクォータ計算式の包括的見直しの結果は、第 15 次見直しに関する作業のなかで、理事会が、可能な限り広範な支持を得ることができる改革パッケージのコンセンサス形成を念頭に、新たなクォータ計算式について合意するための適切な基盤になるだろう」と述べた。

IMF のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は「これまで 1 年に渡り理事会は有意義な協議を重ねてきた。加盟国は今日、今後行われる第 15 次クォータ一般見直しの枠組みの中で、改善されたクォータ計算式について合意する良い状況にある。この点において、我々は、IMF の正当性と有効性の強化を最終目標に、理事会および加盟国と積極的に協力していきたい」と述べた。

IMF 加盟国はそれぞれ、総じて世界経済での相対的な地位を基に、クォータが割り当てられる。クォータは、各国の IMF への資金上のコミットメントの上限を定めるとともに、加盟国の IMF 資金へのアクセスの決定に影響する。さらに、特別引出権 (SDR) の一般配分での加盟国のシェアを決定し、かつ各国の議決権と密接に関係している。クォータ計算式は、クォータ調整で重要な役割を果たす。